きんもくせい

令和元年　学校教育だより
September 9　第342号
（年４回発行）
編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711（内線623）

編集目標　人間尊重の教育を求めて

１年生と６年生による交歓給食　一緒に食べるとおいしいね！　写真提供／つるせ台小学校

「夏の景色」

南畑小学校六年
前畑　瑠璃

車に乗って
サイドミラーに
夏が映る
春より大きくなった
田んぼのいね
まわりには汗をかく人たち
車をおりて
まわりをみると
また新しい景色が見える

クラスの誰もがその運動の楽しさを味わえるために

人生百年時代といわれる現代、生涯にわたり学習やスポーツに取り組む姿勢や、健康への意識を高めることが大切になってきています。一方で子どもたちの日常に目を向けると、外遊びや運動をする機会が減少する中、運動をする子としない子の二極化が問題となっています。そこで、学校体育では、全ての児童生徒が楽しく運動できる場をつくり、生涯にわたって運動に親しむ資質と能力を身に付けていくことが大切であると考えています。

私たちは、「クラスの誰もが運動の楽しさを味わえるために」をテーマに掲げ、ボール運動のゲームの教材づくりに取り組みました。「場」「物」「人」「ルール」の四つを視点に、実際に教員が試しながら教材をつくっていきました。

クラスの誰もが運動の楽しさを味わえる教材の開発

～ボール運動のメインゲーム～

指導者　鶴瀬小学校　教諭　山本 悠登　國料 樹　内野 潤

始めに

ドッジボールを例に考えてみましょう。広いコートで少人数で試合をしてもなかなか相手にボールを当てられず、盛り上がりに欠けることになります。堅いボールを使うと、苦手な児童はボールを捕ることができなくなります。ルールが適切でないと、面白さが減退することがあります。このようなことから私たちは、誰もが楽しさを味わえるゲームの指導には、「場」「物」「人」「ルール」の四つの視点が大切だと考え、授業を組み立て、実践しました。

六年カルテットサッカー

サッカーは、二つのチームが攻守の入り交じった状態でパスをつなげて、シュートを、得点を競って楽しむ運動です。

〈場〉ゴールゾーン・シュートエリアを設定し役割分担を明確にすることで、それぞれが活躍でき、かつ点が入りやすいようにしました。

〈物〉柔らかいサッカーボールを使い、誰もが安心してボールを蹴ったり受けたりすることができるようにしました。

〈人〉一チーム五、六人編制とし、人間関係や技能等を考慮して、担任が決めました。

〈ルール〉攻める時は、①ドリブルなし、②シュートエリア内でのみシュートができることにしました。守る時は、①ゴールキーパーはなし、②ボール保持者から一m離れて守る、③ボールを奪い取ることはできない、④守るゾーンを決めて守ることにしました。

〈成果〉サッカーが得意な児童だけがプレーするのではなく、全員がゲームに積極的に参加することができました。特にルールの工夫により、サッカーが苦手な児童でも、安心してパスを出すことができたり、得点を決める経験を得ることができたりしました。

五年ティーボール

ティーボールは、二つのチームが攻撃と守備を交代し、ティーの上に置いたボールを打つ、捕る、投げるなどをしながら、得点を競い合って楽しむ運動です。

〈場〉一塁、二塁、ホームで構成される三角ベース方式を採用し、簡単に点が採れるようにしました。また、一塁と二塁を結んだ線より前に守備が出られないようにし、簡単にアウトにならないようにしました。

〈物〉バットを軽い物や短い物などを用意し、児童の実態に合わせて選択できるようにしました。

〈人〉六年カルテットサッカーと同様に、チームは人間関係や技能を考慮して、担任が決めました。

〈ルール〉攻撃側は一塁ベースを踏めば一点、二塁ベースを踏めばさらに一点が入るようにし、ファウルは何度でも打ち直せるようにしました。守備はボールを捕った児童の周りに一列で集まって座ることでアウトとしました。アウトの判断の簡素化と守備者全員が動くことで運動量の確保を図りました。

〈成果〉運動が苦手な児童も得点する機会が生まれました。また、守備では互いに声を掛け合い、連携が必然的に生まれ、攻守の攻防が活発化しました。

三年キックベース

キックベースは、ボールをできるだけ遠くに蹴り、ベースを周り、得点を競って楽しむ運動です。

〈場〉五年ティーボールと同様に三角ベース方式を採用し、点数を採りやすくしました。また、ホーム付近にファールゾーンをつくり、ミスをしてもやり直しができ、全員が思い切りボールを蹴ることができるようにしました。

〈物〉ソフトサッカーボールを用意し、思い切り蹴って飛ばしたり、捕ったりする楽しさを味わえるようにしました。

〈人〉一チームを六人とし、人間関係や技能を考慮して決めました。

〈ルール〉一つのベースにたどり着くと点数が加算できるようにし、点数を多く採れるようにしました。また、塁間でアウトになってもたどり着いたベースまでの得点を加算できるようにし、次のベースを果敢に狙っていけるようにしました。

〈成果〉誰もがチームの得点に貢献する経験を味わうことができました。

終わりに

ティーボールの単元終了後のアンケートでは、三十三名中三十一名が「とても楽しかった」と回答し、残り二名も「楽しかった」と回答しました。記述でも「チームで協力できた」「ルールがどんどん変わって楽しかった」などがありました。ティーボール以外の単元でも同様の結果が得られ、特に運動が苦手で、技能が低い児童が意欲的に取り組み、その結果、技能向上が見られました。四つの視点の工夫により、『誰もが運動の楽しさや魅力を味わえる授業』につながったと考えます。今後もこの四つの視点から授業づくりを行い、児童が運動の楽しさを味わえる授業を今後も実践していきたいと考えています。

指導講評

鶴瀬小学校　校長　松波　徳美

体育科の授業で、その運動の持つ楽しさを味わわせることは、生涯にわたって生活に運動を積極的に取り入れる素地となります。本校の体育研究グループの取組は、四つの視点を設け、何度も実技研修を通して教材づくりを行い、授業実践から、その成果や課題を明らかにしています。このような研究の積み重ねにより、体育科の目標が確実に達成されるものと確信しています。

子どもの四季

水谷小学校　6年
萩元　聡一朗

笑顔あふれるみんなの行事

水谷小学校には、「わんぱく祭り」という年に１回の行事があります。この行事では、グループに分かれて全学年が協力して自分たちのお店をつくります。

グループの中にも班があります。班では１年生から６年生のみんなで、どのような工夫ができるのかを考えました。班のみんながんばっている姿を見て、自分もよいお店をつくろうと思いました。そして前日までに思いをこめてお店を完成させました。わんぱく祭り当日は、お店にたくさんの人が来てくれて笑顔になっていたので、店番の人も自然に笑顔になれました。

この笑顔あふれる行事が今後も続いてほしいです。

「障害物競走」のお店の様子

特別支援教育

台中はひとつ　ファミリー学級

富士見台中学校　教諭　德永　由美子

先日、生徒たちが「台中では交流学級のことをとても素敵な呼び方をしているんですね。」と感動していました。富士見台中学校では、交流学級のことを「ファミリー学級」と呼んでいます。

よつば学級では、ファミリー学級と共に様々な活動に取り組んでいます。生徒たちは、ファミリー学級の朝の会に行き、毎日の交流を積み重ねています。一緒に農作物を育てたり、収穫を喜んだりします。体育祭はファミリー学級の生徒たちと一緒に、できる限りの競技に参加します。表彰式では、ファミリー学級の生徒たちの考えの下、よつば学級の生徒がファミリー学級の代表としてトロフィーと賞状を受け取らせてもらうという感動的な出来事がありました。合唱コンクールでは、昨年度からよつば学級のステージにファミリー学級の生徒たちも一緒に上がり、合唱をしています。既に、今年度の合唱コンクールでのよつば学級の発表に向けて、ファミリー学級の有志が百名を超えて集ってくれました。

ファミリー学級の生徒もよつば学級の生徒も互いに一緒に生活することを当たり前で自然なことと感じ、様々な場面で一緒に手を取り合って活動しています。そんな毎日の生活は正に「ファミリー（台中はひとつ）」の名に相応しいと感じています。

地域の中で、地域の人々と…

水谷中学校　PTA会長　河本　志保

私の子どもたちは、柳瀬川と新河岸川に囲まれた水谷地域で、四季折々の自然と田んぼの風景の中、のびのびと育ちました。

昔から水害に悩まされてきたこの地域では、防災への取組が活発です。我が子たちも小学生のときには母に連れられて、中学生になると部活ごとや有志、生徒会を中心に参加してきました。もちろん、私もPTAとして一緒に参加してきました。

水谷東地域では、一年を通して二～三回の大規模な地域防災訓練が行われ、中学生も大勢参加しています。

訓練では、地域の防災隊の方々から、直接手順やコツ、ポイントを教えてもらいながら、安否確認や避難誘導、消火訓練、避難所設営に炊き出しなどの様々な訓練を行います。

訓練に参加することで、子どもたちは避難行動・方法を学ぶとともに、地域の方々と関わりをもつことで、自分が住んでいる町のことや、中学生としての役割を学んでいます。

心身共に成長途中である子どもたちの心の成長には、学校で経験したり、気付いたりすることのほかに、地域での豊かな経験が不可欠です。そのために、日常の生活や日々の活動の中で、様々な人々との関わりや体験の機会をつくっていくことも、必要となってきます。

PTAとしても、意図的に、計画的に、「子どもたちの体験機会の充実」に取り組んでいきたいと思います。

生きる力をはぐくむ「はつらつ体験」

東中学校

東中学校の二年生は、職業について理解を深め、自らの将来につなげていく、職場体験学習「はつらつ体験」を行っています。生徒は二～七人の班に分かれ、富士見市・ふじみ野市にある様々な事業所に赴き働く体験をします。業種は飲食業や教育関係、公共事業まで多岐にわたります。

体験している姿を見に行くと、迷いながらも仕事に励む姿、体験先の人に「いつからこの仕事をしているんですか。」と質問し、将来について学ぶ姿、持ち前の器用さを発揮し、楽しそうに打ち込む姿…。普段と違う環境で生徒たちは一生懸命活動していました。

三日間の体験から生徒たちはどのような未来を思い描くのでしょうか。今後この職場体験で感じたこと・学んだことを元に、生徒たちは「はたらくこと」について学びを深めていきます。生徒一人一人の気付き・学びがよりよい未来を築くための一つの機会となるでしょう。

孫にも絵本を読んでいたことを思い出し、子どもたちは覚えているのかな?と思います。子どもたちが大きくなったときに、絵本を読んで同じような気持ちになるとしたら、少しうれしく思います。子どもたちが喜ぶ顔を思い浮かべながら、図書館で本を借りて今日も読もうと思います。

らっていた頃の父や母の顔まで浮かんできます。そのときに話した内容までよみがえることもあり、自分でも驚くほどです。父はまだ健在ですが、母は六年前に他界しました。

ハッピーあいさつプロジェクト

みずほ台小学校

みずほ台小学校では、毎朝クラスごとに交代であいさつ運動を行っています。

更に昨年度から「ハッピーあいさつプロジェクト」を開始しました。これは、人と人とが笑顔を交わし、安全な学校・地域を創造することをねらいとしています。毎月第一金曜日の朝、学校の正門や地域の様々な場所で児童、保護者、地域の方々の「おはようございます」の声が行き交っています。

あいさつは、コミュニケーションの第一歩です。また、あいさつをすることで地域のつながりを深めることができると考えます。

この取組を通して児童の意識が学校だけでなく、地域へと広がりつつあります。また、保護者、地域の方々の意識の変化も感じています。

みずほ台小学校区が、これからもあいさつ溢れる明るく安心な地域であり、その担い手である子どもたちが健やかに成長するように、今後も学校と地域が連携していきます。

教育課題特集

生きる力を　はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

絵本の力

ふじみ野小学校　保護者　勝山　祥

我が家には、三人の子どもがいます。ふじみ野小学校で六年生、二年生、一年生とお世話になっており、少しでもお手伝いできたらと月に二回程、読み聞かせのボランティアをしています。

学校での読み聞かせの前に自宅で練習を兼ねて読むと、子どもたちがうれしそうにやってきて、聞いてくれます。小さい頃に、読んであげていたときとは違い、文字を読めるようになっているので、私の読みまちがいには厳しい指摘が入ります。

新しい絵本もあれば、自分が読んだことのある絵本もあります。ページをめくるときにドキドキした子どもたちの顔を見て、自分も両親に絵本を読んでもらった頃を思い出し懐かしく感じることがあります。絵本がもつ不思議な魅力のせいか、挿絵や内容だけでなく本の手触り、読んでも

子どもたちが安心できる優しい居場所

諏訪児童館　館長　田屋　典子

子どもたちが児童館で遊び帰り際に「わぁ、楽しかった。明日も来よう。」この言葉を耳にしたとき、それは私がこの仕事をしていて生きがいを感じる瞬間です。

今、諏訪児童館では、一つ一つの遊びの技を巧みにこなし、初級・中級・上級へと合格を目指す「オールラウンドプレイヤーに挑戦」が大人気です。こま、なわとびなど身近にある遊びが盛り込まれています。最難関はじゃんけん連続勝ち。「じゃんけんしてください。」と声をかけ相手を見つけます。休日には、小学生が乳幼児のパパと対戦するなど、幅広い異世代交流があり、児童館ならではの光景が見られます。

この遊びの中で、私たち職員は子どもたちへの新しい発見がありました。それは子どもたちのもっている底力です。ボードに掲げられた合格者名は輝いています。こうした成功体験や失敗したときの悔しい思いの積み重ねは、子どもたちの「生き抜いていける力強さ」に繋がると確信するのです。

児童館における中高生の居場所として、夕焼け放送以降の遊戯室は中高生向けになります。ときには、四台の卓球台がフル活用され、さながら部活動のようでもあります。

遊びの中から学び、個性を伸ばせる環境をこれからも整えていきたいと思います。そして子どもたちの放課後やりたい遊びができ、また行きたいと思える、安全地帯のような優しい居場所でありたいです。

一年で一番長い学期である二学期がスタートしました。運動会や音楽会など多くの行事が計画されています。

今、学校では子どもたちに「生きる力」をはぐくむために体験活動や言語活動の充実に力を入れています。様々な体験の中で感じたことや考えたことを自分の言葉で伝え合う活動を通して、主体的に行動できる子どもを育てていきたいと考えています。

様々な活動を通して自分に自信をもって学校生活を送ることができるように、各学校が創意工夫をして特色ある教育活動に取り組んでいます。

学校 TODAY ○月×日

勝瀬小

世界各国の文化を体験！

4年生が、総合的な学習の時間「広げよう、育てよう、つながりの輪」で、ゲストティーチャーを招いて様々な国の文化や伝統について学びました。

西中

学校生活を向上させるために

6月13日、生徒総会が実施されました。生徒一人一人が、生徒会の会員であるという自覚をもち、話し合いを行うことができました。

水谷東小

楽しかった東っ子まつり

異学年と楽しく交流ができた東っ子まつり。短い時間の中で、遊ぶ楽しさや各お店での仕事の楽しさを実感できた日となりました。

関沢小

コの字型の机の配置で学び合い

『考え、話し合い、学び合う学習』の充実に向けて、友だちと向かい合い、友だちと対話してつながり合う授業を実践しています。

勝瀬中

生徒会主催で部活動壮行会が行われました！

各部活動の部長が、大会への抱負、決意を堂々と発表しました。会場内は、温かい激励の拍手に包まれました。

諏訪小

今年も田植え体験をしました

地域の方の協力により、今年も５年生が田植え体験をしました。秋には稲刈りも体験する予定で、収穫を楽しみにしています。

みずほ台小

読書月間～大型絵本の読み聞かせ～

大人の身長ほどの大きな手作り絵本と BGM、優しい語り口調によって子どもたちは絵本の世界へと引き込まれていました。

針ケ谷小

サマースクール

希望制のサマースクールになり、たくさんの子どもたちが中学生・地域の方々と一緒に学習を進めています。

東中

東中いじめナシの木

全校生徒がいじめナシに向けた宣言を書き、それを昇降口に掲示しています。学校全体で意識向上に努めています。

＝市立中央図書館より＝

第二回 富士見子どもビブリオバトル大賞を開催します

「ビブリオバトル」という言葉をご存知ですか？「人を通して本を知る。本を通して人を知る。」がキャッチコピーの本の紹介ゲームです。ルールはシンプル。一人五分の持ち時間で自分の好きな本を紹介し、その後、参加者全員で二分～三分のディスカッション（質疑応答）を行います。最後に「どの本が一番読みたくなったか」を基準に投票し、最も票を集めた本がチャンプ本となります。京都大学の谷口忠大氏らによって始められ、現在では多くの図書館、書店、学校等で行われています。

富士見市では平成三十年度に策定した「第三次富士見子ども読書活動推進計画」の「本に親しむきっかけとなる事業」の一つとして図書館と学校が連携し、「富士見子どもビブリオバトル大賞」を行っています。平成三十年度は、鶴瀬小学校、ふじみ野小学校、つるせ台小学校の三校に協力いただき、各校でミニ・ビブリオバトル（本の紹介時間三分）を実施。代表児童が中央図書館で決勝戦を行い、『五秒後に意外な結末　パンドラの赤い箱』（桃戸ハル／編著　学研プラス）がチャンプ本となりました。

富士見市の小・中学生が、今おもしろいと思う本、読みたいと思う本を選ぶ「富士見市子どもビブリオバトル大賞」。今年度は、十一月十日（日曜日）に中央図書館にて決勝戦を開催します。

小・中学生の皆さんには、観覧募集のお知らせが学校を通じて届きますので、ビブリオバトルを見てみたい方はぜひ応募してください。大人の方にも観覧いただけるよう募集を行います。詳しくは、中央図書館のホームページやポスター・チラシでご確認ください。

最後に、本を紹介し合うこと、読書体験を共有することの豊かさを感じられる言葉を紹介します。

「書物を交換する、というのは、じぶんの体験した異質の世界を見せ合う、ということである。そして、だれにでも経験のあることだろうが、自分が読んでみて、ほんとうにいい本だ、と思った本は、ひとにも読ませたくなるものだ。読んでいるあいだは、完全にじぶんだけの世界だが、その世界に、じぶんの親しいひとをひきずりこんで経験を共有したくなるのである。そういう経験の交換が、家族のそれぞれの読書生活のなかでおこなわれるのは、すばらしいことだ。」

『暮らしの思想』（加藤秀俊／著　中央公論新社）より

富士見市中央図書館　神山　友香

クラスの横顔

たった一つの感動ドラマ

関沢小学校　教諭　河崎　一史

私は、運動会が大好きである。なぜなら、クラスが一つになれる学校行事だからだ。五月下旬、三年生になってから最初の大きな学校行事、運動会がやってきた。

三年生学年競技・台風の目。クラスがまとまるにはもってこいの種目だ。しかし練習では、他クラスに大敗。悔しさからみんなで作戦を立てた。次々と意見が挙がった。「練習量を増やすしかない。」一位をとりたいという思いから、休み時間を利用し、心を一つに必死で練習をした。子どもたちは、驚くほど成長していった。

本番当日、円陣を組み、いよいよレースへ。「やってやる」自信に満ちあふれた表情でスタートした。すると、そこには驚くべき光景が。「がんばれ。」「前につめて。」「ひざを曲げて跳ぶ準備だよ。」そこで目にしたのは、大きな声を出しながら、全力で仲間を応援したり、励ましたりする姿であった。まさに「協力」し合う姿がそこにあったのだ。その姿を見て、私は鳥肌が立った。結果は見事一位。みんなで努力して勝ち取った勝利となった。とてもうれしそうに喜んでいた子どもたちの表情は、今でも忘れられない。まるで、一つの感動ドラマを観ているようだった。

今でも教室では、毎日のように友だちと助け合う姿や協力し合う姿が見られる。このまま真っ直ぐに成長してほしいと願っている。

教育委員会だより

令和元年度学校総合体育大会 県大会・関東大会・全国大会　結果

（敬称略）

学校名	種目・名前	学年	県大会	関東大会・全国大会
富士見台中学校	卓球　男子シングル 池田 幸将	3年	第5位	関東大会出場
	卓球　男子シングル 神保 輝太	2年	第15位	関東大会出場
本郷中学校	水泳 男子 1500m 自由形 廣岡 全	3年	第5位	関東大会3位
西中学校	男子バレーボール 原田 翔宇、小林 愛翔 高野 大和、鬼塚 瑛大 川口 弦大、武宮 琉汰 中桐 真渚斗、黒田 悠斗 渋谷 竜作、朝倉 大善 坂田 大武、島村 淳斗		優勝	関東大会5位 全国大会出場
勝瀬中学校	陸上　男子 100m 藤村 泰成	3年	通信陸上 第2位 県大会/学総 第3位	関東大会7位 全国大会出場
	水泳 女子 50m 自由形 神谷 奏音	1年	第9位	関東大会出場
	卓球 男子団体 品田 優作、木村 元信 小熊 悠介、渡辺 築 青木 楓真、直嶋 晃輝 吉田 遥斗、萩原 嵩巳		第2位	関東大会出場
	卓球　男子シングル 吉田 遥斗	1年	第3位	関東大会出場
	卓球　男子シングル 渡辺 築	3年	第8位	関東大会出場
水谷中学校	空手　女子組手 髙﨑 彩菜	2年	優勝	全国大会出場
	硬式テニス　ダブルス 田中 舞璃花 古城 さくら	2年	第5位	関東大会出場

お詫びと訂正　5月号（341号）の「生きるちからをはぐくむ」に、勝瀬小学校　かつせらんどコーディネーター　大瀧徳子様にご執筆いただきましたが、お名前の漢字を誤って掲載いたしましたので、ここにお詫びし訂正いたします。

編集後記

「わーい、明日から夏休みだー。」そんな楽しい夏休みもあっという間に過ぎ、しーんと静まりかえっていた学校にも、子どもたちの元気な声が響き、活気が戻ってきました。久しぶりに会う子どもたちが、ほんの数週間で、ずいぶんたくましくなった気がするのは、私だけでしょうか。

ところで、夏休みに入ってすぐに、一枚のはがきが私の手元に届きました。差し出した人は、三年生の児童。そのはがきにはていねいな字で、毎朝の登校時のあいさつや見守りに対する感謝の気持ちが書かれていました。きれいに色もぬられ、とてもうれしかったのと同時に、心があたたかくなりました。近頃は電子メールやSNSなどの普及により、手書きのはがきが届くことはめったになくなりました。思いがけず届いた一枚のはがきに感動しっぱなしでした。

「はがき」というと思い出すのが、向田邦子さんの「字のないはがき」というエッセイです。終戦の年、小学一年生の幼い妹が疎開するとき、いつもは怖い父が「元気な日は○を書くように」と、たくさんのはがきを妹に渡します。最初は大きな赤鉛筆の大マルが、黒の小マルになり、やがてバツに変わっていき、ついには…。

はがきのエピソードを通して、いつもは怖い父の子どもに対する深い愛情が語られています。同時に、読むたびに、平和な時代に生きているありがたさを感じます。

終戦から、七十四年。戦争を経験した人も少なくなりました。子どもたちに、平和のありがたさといのちの大切さについて伝えていかなければと感じています。

（辻口）